



茨城四十五景 青麻三光神社

「茨城四十五景」をご存じでしょうか。

これは昭和10年（1935）、茨城新聞の創刊45周年記念事業の一つで、県内の景勝地を発掘、広く県内外に紹介することを目的としたものです。これが県内初の県民投票による景勝地の選定事業となりました。

常陸大宮市域では、青麻三光神社（下檜沢）、三浦杉（小田野）、宇留野台（宇留野）が選定されています。今回は、この中から青麻三光神社について紹介します。



▲青麻三光神社社殿

【神社の概要】

青麻三光神社は下檜沢の青麻山の山頂（395m）にある神社で、天御中主命（北極星の神）、大日靈貴命（＝天照大神、太陽の神）、月読命（月の神）、3柱の神様が祀られています。社殿は青いトタン葺きで一見新しく建てられた神社のように見えますが、この社殿内を見ると、小さな木製の社殿を確認することができます。また、境内の「敬神」と刻まれた記念碑にはこの神社の由緒が記されています。その碑によると、文政5年（1822）に村人小室善十が奥州の青麻三光神社（現仙台市の青麻神社）の分霊を小室家の氏神としてこの山に迎えたことで、この神社が建てられ、小児の虫切り（夜泣き、かんしゃく封じ）と中風除け（脳血管障害の後遺症除け）のご利益があることから近村の人々にも信仰され、春と秋に祭礼が行われていたようです。

【雲姥山神社】

境内には青麻三光神社の他に、雲姥山神社という小さな社殿があり、その後方には「雲姥山神霊」と刻まれた石碑があります。この石碑の裏面には「嘉永三庚戌年」（＝1850年）という年代が刻まれています。

記録によると、この神社の名称になっている雲姥山は青麻三光神社が鎮座する以前の青麻山の名称ですが、石碑の年代が青麻三光神社が鎮座した文政5年（1822）より後であり、なぜこの神社の名称に雲姥山が使われているのかは不明です。



▲青麻三光神社の茨城四十五景入選記念プレート

【茨城四十五景に選定】

冒頭で紹介しましたが、青麻三光神社は昭和10年（1935）に茨城四十五景に選ばれました。では、なぜこの神社は四十五景に選ばれたのでしょうか。同年8月15日付『茨城新聞』で四十五景候補地としてこの神社を紹介する記事では、この神社が候補地として選ばれた理由として、眺望が絶景であること（脚下に那珂・久慈両川、東に太平洋、西南に筑波山、日光山、富士山）、季節の景色が格別であること（春の鶯の声、秋の紅葉、冬の雪景）、古くより「中風除」「虫切り」の神として四季参詣者が絶えないこと、の3点を挙げています。この記事から、当時、青麻三光神社はとても見晴らしが良く、多くの人々に信仰され、親しまれていた場所であったことが窺えます。

茨城四十五景の選定では、この神社も含め154ヶ所が候補地として挙げられ、県民投票により上位45ヶ所が四十五景に選定され、同年9月2日付『茨城新聞』で発表されました。青麻三光神社は30位にランクインし、茨城四十五景に入選しました。その後、同年9月8日付『茨城新聞』には、青麻神社保勝会により、下小川駅から青麻山への登山道を新設し、青麻山の山頂に記念碑を建てたという記事が掲載されました。現在となっては、下小川駅からの登山道はどのようなルートだったのか不明ですが、記念碑は現在でも確認できます。この記念碑には四十五景入選記念として茨城新聞社から送られた「茨城四十五景 入選 青麻神社 創刊四十五周年記念 いはらき新聞社」とレリーフされた金属製の記念プレートがはめ込まれています。

参考文献

- 『美和村史料 茨城新聞』（美和村、2002年）
- 『茨城新聞百年史』（茨城新聞社、1992年）
- 『茨城県神社誌』（茨城県神社庁、1973年）

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）